「政幸だより」都道府県９月送付分

輸液製造工場を視察しました

参議院議員・薬剤師　神谷政幸

令和 6 年 7 月 17 日、（株）大塚製薬工場様の輸液製造工場を視察させていただきました。輸液製剤は「医薬品産業ビジョン 2021」においてベーシックドラッグに定義されており、生命の安全確保に直結する医薬品です。輸液は昨今の原材料やエネルギー価格の上昇によって、大きな影響を受けている医薬品の一つでもあります。

今回の視察の印象として、一番に工場の設備の大きさに驚きました。安全な無菌製剤を医療現場に届けるため、緻密かつ責任の重い仕事に従事されているスタッフの皆様に、改めて敬意を表したいと思います。工場では各種データを従来の手書きから、自動的に記録できる方法にシステム変更するなど、信頼性向上のための投資も積極的に行っておられました。製造された輸液製剤は、東京と大阪の近くに新設した巨大な物流倉庫に数か月分が備蓄されていると伺いました。災害発生時にも十分対応できるよう、輸液製剤の安定供給に努めておられる姿勢に感銘を受けました。

今回の視察で原材料やエネルギー価格の上昇以外にも、輸液製剤が採算を取りにくい点を理解することが出来ました。大きな設備で無菌的に製造するためには高額な投資が必要であり、高コスト構造となります。輸液製剤は大容量の製剤であることから、製造所や倉庫も大規模の設備が必要で、輸送にもコストがかかります。品質確保のため将来的にも継続した設備更新が必須であり、無菌性を保つためには、滅菌工程の設備等の疲労やダメージに対応する必要もあります。

感染症の流行や地震・噴火などの突発的な有事に対して、被害を最小限に抑えることは我が国にとって戦略的に重要です。輸液製剤は救命・救急医療に必要不可欠な医薬品であることを改めて認識し、生命に直結する安定確保が必要な医薬品の供給問題に、しっかりと対応して参ります。